



チャート解体新書

～エリオット波動&チャネルライン裁量トレード手法～



目次

はじめに

第一章 罫線分析はすべてエリオット波動に通ずる

1-1 曖昧な高値/安値の判断

第二章 エリオット波動を紐解く

2-1 エリオット波動とは

2-2 エリオット波動の基本

2-3 推進波の基本

2-4 値動きの塊はEMAで判断

2-5 練習には米国株がおすすめ

第三章 チャネルラインの神髄へ

3-1 75EMAの角度が重要

3-2 75EMAの角度にあわせたチャネルラインの引き方

第四章 裁量トレードを極めていく

4-1 買いトレード例

4-2 売りトレード例

コラム 技術向上/改善がメンタルをしのご理由





はじめに

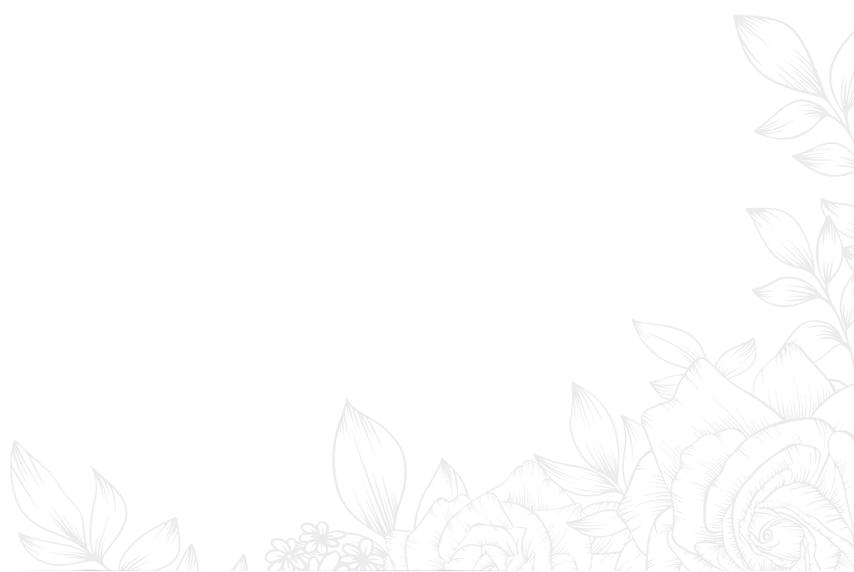
著作権は、本レポート執筆者AKIRAにあります。
本レポートの内容は、誰にでも適するものではありません。

また、レポートの内容を全て覚えても、同じトレードが出来る保証はありません。

裁量トレードの内容なので、経験を積み重ねることが大切であり、
ブログ記事と一緒に読むことで、より一層理解が進みます。

レポートについての質問等には全て回答することは出来かねますが、
多い質問事項については特別記事として更新する予定です。

最後に、本レポート内容を無断で掲載・転載すること、セミナー、
動画、ブログ、SNS等で承諾もなく公開することはお控えください
させていただきますようお願い致します。



第一章

罫線分析は全てエリオット波動に通ずる

罫線分析とは？

値動きに合わせてライン等を引き、相場の方向性や意識されている可能性が高い価格帯を見分けるための分析

罫線分析は日々の金融商品の値動きを記したチャートが生まれてから、どのようにして値動きを予測するか考えた先に登場しました。

単純に値動きの高値、安値に横線を引く方法から始まり、高値と安値、高値同士、安値同士を結んでいくトレンドラインという方法が生まれ、一定の値動きの幅を知るためのチャンネルラインというものも生まれました。

しかし、罫線分析は人によって曖昧な部分が多く、引き方が異なります。そのため何が正しいかが分からずにおろそかになってしまい、いかにもトレードしている感覚になる移動平均線やMACDなどのインディケーターだけを使ってトレードするようになります。

これは非常にもったいないことです。

インディケーターを構成している計算式にはほとんど値動きの元である四本値（始値、終値、高値、安値のこと）が使われているため、罫線分析の結果と組み合わせたほうが効果があります。

そのため、明確なルールで縛った罫線分析を自分で作り上げる必要があります。ここでは私の経験と検証を重ねてたどり着いた効率的かつ効果的、再現性のある方法をお伝えします。



1-1 曖昧な高値/安値の判断

1枚のチャートを表示させて、ある質問をします。

「どこが高値で、どこが安値ですか？」

すると、人によって指すポイントが違います。

例えば、下のドル円月足チャートを例に考えてみます。
このチャートで高値と安値はどれでしょうか？

少し考えてみてから次のページへ進んでください。



第一章 罫線分析は全てエリオット波動に通ずる



大体の人は上図のように緑枠を高値、赤枠を安値と認識します。

しかし下図のように認識する方もいます。



この2つの違いは何なのでしょう？
少し考えてから次ページを開いてください。

前ページの2つの違い。

それは、値動きの波のサイクルが短期的か長期的かの違いです。

どういうことかという、下図のように長期的な大きい波で見ると上昇2回、下落1回の波となります。



枠で示すとこのような感じになります。



次に細かい高値/安値で判断した方はどのように見ているか。
このように見えているはずですが。



枠で示すとこのような感じになります。



しかし、これはどの人も正しく、決して間違っているわけではありません。

ただ値動きの塊を見ている大きさが違っているに過ぎません。

値動きの塊＝エリオット波動の1波動分

これが理解できれば、実はエリオット波動はとても簡単になり、自分で判断することが**必ずできる**ようになります。

そして同時に罫線分析をするときのラインの起点や終点になります。

そのため、エリオット波動が分かれば罫線分析を的確にすることが出来るようになります。

エリオット波動は難しい！を簡単にするのがこのレポートの目的の1つなので、安心してこの先に進んでください。

